

関西慶應寮和会新聞 第4号

発行日：2012年5月23日(土)
記者 松永修(S58年卒)

5月12日(土)に、慶應義塾大学日吉キャンパスで、日吉寄宿舍75周年記念総会及び記念式典の盛大な催しが開催されました。関西慶應寮和会からも7名の皆様が参加しました。

I 新日吉寄宿舍見学会(10:30~11:15)

会場は、南寮が全面改修工事が完了した新「日吉寄宿舍」建物の基本構造は大きくは変わっていないものの外装や内装が大変綺麗になりました。(写真1)
また、風呂場や食堂の改修、各部屋の改修がなされ非常に快適になりました。(写真2)
各部屋は従来通り3人部屋。ベッドやエアコンが新設され居住性が向上しました。IT関係も充実しているとのこと。

II 寮和会記念総会(11:30~12:45)

会場は協生館藤原記念ホール(写真3)

- ①会長挨拶： 小西会長
- ②活動報告： 清浦副会長

③会計報告：

④関西慶應寮和会：

⑤次期役員の選出：

青井幹事(会計担当)

由良世話人会会長

吉武新会長・河野新副会長

由良新幹事・小田新幹事 他

III 記念式典(13:15~14:15)

① 式辞 慶應義塾長 清家塾長

② 祝辞 寮和会会長 小西会長

③ 祝辞 寄宿舍舎監 近藤舎監

④ 祝辞 寄宿舍代表 黒木代表

＜清家塾長のお話＞・・・抜粋

大学は、生産性に高い人材を輩出し、日本の社会をより良くする公共財としての役割がある。

一方、大学が他のサービスと違うところは、教育は、お金では買えないという点である。学生はいわゆる顧客ではなく、教育の担い手であり、良い友人・先輩・後輩を得られる事が＜良い大学＞の要件である。



写真1. 新装なった日吉寄宿舍(南寮)



写真2. 綺麗になった食堂



写真3. 寮和会総会(藤原記念ホール)

学生同士が学び合う<半学半教>は、慶應義塾の教育の原点であり、体育会の学生と同じく、寄宿舎生は<半学半教>を最も具現化している学生である。学び合う中で教え合う。このことが慶應義塾の本質、福澤先生が目指された教育の姿であり、お金には替えられないものである。

学校の価値は、ひとえに塾員の有りようであり

- ・塾員がどれだけ社会に貢献しているか
 - ・塾員がどれだけ学校を愛し続けられるか にかかっており
- 本日、多くの寄宿舎OBの方が、参加されていることから、その素晴らしさが判る。

またお話の中で日吉寄宿舎75周年に対する祝辞を頂きました。

IV 記念祝賀会(14:30~16:30)

会場は、協生館・クイーンアリス(イベントホール)

その中で、

- ①新入寮生紹介(写真4)
 - ②日吉寄宿舎75年の歩み(スライド)
 - ③功労者の表彰 等が行われ、75周年を共に祝い
- 最後は、<若き血>と<エール>で幕を閉じました。(写真5)



写真4. 新入寮生(祝賀会)



写真5. <若き血>熱唱



写真6. 尾崎会(尾崎元舎監)

V 尾崎会宴会

記念祝賀会がお開きになってから、日吉で尾崎元舎監を囲んで総勢約30名で宴会を開催しました。

久しぶりに合わせた顔で、互いの近況から日吉寄宿舎の思い出話まで、花が咲きました。宴会の最後に、尾崎元舎監から挨拶があり、幹事としてご尽力頂いた小西陽一朗君と鈴木岳士君に対して、感謝の御言葉がありました。(写真6)

それでも語りつくせないメンバーは、二次会になだれ込み大いに盛り上がりました。

VI 記念式典に参加して(記者所感)

一度は廃寮の話も恐れもあった日吉寄宿舎が、大学関係の方々寮和会OB、現役学生の皆様のご尽力で、かくも素晴らしい寄宿舎に生まれ変わったことを、大変嬉しく感じました。

清家塾長から、慶應義塾の本来の姿である<半学半教>を寄宿舎生は自ずから具現化できているとお言葉を賜りましたが、これは寄宿舎生とOBに対する最高の賛辞と感じました。

我々関西慶應寮和会は、今後活動を立ち上げていくわけですが、関西と東京で物理的距離は有りますが、なんとか現役寄宿舎生とOBの交流を活発化し、社会に貢献したことを勉強し合い、まさに<半学半教>を実践していきたいと感じました。 以上

第5回関西慶應寮和会世話人会合が、大阪本町のお食事処<一朗>で開かれました。

<出席者>

由良豊一(40商)、増田登(40商)、相本琢郎(41法)
酒井克己(42法)、飛鳥久範(43経)、松本文一郎(50文)
青嶋義晴(52工)、西村元秀(53商)、小林博隆(54経)
阪本光宏(61商)、浄住徹朗(H5経)、宮崎博(H18経)
松永修(58工)

I 議事内容

①出席状況の確認(設立総会・式典・祝賀会)

- ・返信のない約半数の会員に対して手分けして確認を行う。
- ・5月末を目途に人数を確認し、ホテルに連絡する。
(青嶋実行委員長)

②式次第の確認

- ・記念式典の始め来賓挨拶の前に、関西慶應寮和会会長として由良会長に挨拶して頂く。
- ・世話人の当日の服装は<ネクタイ着用>とする。

③当日の役割分担について

- ・世話人は名札(首かけ方式)にて世話人と表示する。
- ・来賓は到着時刻を確認し、受付でお迎える

④その他

- ・祝賀会の座席は世代の違う方々の交流を活発にするため抽選とする。ただし来賓の方々など一部をシード制にする。
- ・出席者同士の交流がもてるように、出席者の方々にプロフィールを事前に作成頂く(ただし、強制はしない)
- ・祝賀会終了後は、幹事部屋で二次会を開催する。
事務局は、酒・つまみを用意する。

II 三色旗 右のデザインに決定



III 事業計画について

- ・平成25年末までの事業計画(案)に一部修正の上、了解を得る。
- ・7月の会合の場所・内容について検討。
由良さんに講師をお願いすることになった。

IV 新聞について

- ・本部への発信について3役了解の上、本部の窓口に送り、必要に応じて転送頂くものとする。
- ・今後は関西慶應寮和会のメンバーに発信する。

V 宴会

今回は特に議論白熱、7:30になり、ようやく宴会開始。
本日はやはり、新装日吉寄宿舍と盛大な寮和会総会の話で持ち切りでした。



<一朗>のママとパチリ

● メンバー紹介

第2号で、由良さん、相本さん、酒井さん、阪本さんの4名の 紹介をさせていただきましたが、今回初参加の花の20代の宮崎さんも加え、皆様の紹介をします。

今後とも、宜しくお願いします。



増田さん(40商)



飛鳥さん(43経)



松本さん(50文)



青嶋さん(52工)



西村さん(53商)



小林さん(54経)



浄住さん(H5経)



宮崎さん(H18経)



松永記者(58工)

● 編集後記

記者は、寮和会総会のあった5月12日の晩は、スカイツリーの近くに宿泊し、翌朝早速、開業前のスカイツリーを見に行きました。真下まで行ってきたのですが、見ていると首が痛くなり、あらためて高さを感じます。

建設途上の昨年3月に、東日本大震災に見舞われ、スカイツリーも大きく揺れたにも関わらず大きな損害は有りませんでした。建設途中の不安定な状態で地震に見舞われた場合も、大丈夫なように、全ての段階でコンピューターシミュレーションを行い、安全を確認していたということです。

地震の多い日本では当然だと思いますが、いざという時にきちんと実証出来たところに日本のモノづくりの強さをあらためて感じました。5月22日の一般公開を前に、ツリーを目の当たりにしその思いを深くしました。

末筆になりますが、皆様、関西慶應寮和会の発足式の準備ご苦労様です。皆で成功させましょう。以上



スカイツリー